

パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報 2014年8月1日 131号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



レダ基地航空写真 (MBC社撮影=2014年4月27日) 養殖池の拡大がよく分かる。



第二回パクー稚魚放流式典の折、親魚パクーを見るフランコ前大統領夫妻(左)と、国立アスンシオン大学水産科マグノ教授(右) (レダ基地孵化施設にて)

MBC社レダ取材記事放映、人々に感動を与えた!

今年四月下旬に、ピースTVと共に、韓国民間TV社がレダに取材で一週間訪れた。現地状況をつぶさに取材し、記者自身が大変感銘し、もっとレダに残っていたい!と感想を述べて機上の人となった。そこで取材編集された番組が、七月上旬韓国で四十分番組として全国放映され、感動と話題を呼んでいる。

「ここで開拓している人々は、本当に辺境過疎地チャコ地方のために、そしてパラグアイの国の為に貢献し、皆から歓迎されている。しかも日本から年を経た者たちがはるばる電気も水道もない原始生活に近い過疎地にやって来て、真剣に汗を流してきた。今では見違えるような天国を作りつつある。この基地を基盤にして先住民の貧しい村々に、具体的手を差し伸べ、学校を建て、植林を進め、今では養殖を通して、産業のない村々の立ち上がりに貢献しようとしている。更に南米で最も森林伐採をして来たこの国

に、中学や高校の先生、生徒に呼びかけて、一緒に植林活動を展開し、パンタナールの自然を保護する活動に取り組んでいる。」と伝えています。

黙々と十五年の歳月をかけて共に歩んで来た皆様の精誠が、生き生きとしたものとして大きく育っています。

(飯野記)

パラグアイ川水位上昇が止まらず

例年のパラグアイ川は、渇水期が雨季に当たり、豊水期が乾季に当たるといふ、自然の絶妙なバランスの上に、動植物の生態や人間の生活が成り立って来ました。ところが今季は広域にわたる異常気象で豊水期に大量の降雨があり、低落差で流れるパラグアイ川と下流のラプラタ川が大西洋に排出できる限度を超え、各地に洪水の被害をもたらしています。

レダ基地においては、二〇一一年の大洪水の経験を踏まえ、堤の構築、滑走路のかさ上げ、



床上まで浸水し、使用できなくなったゲストハウス群 (7月15日撮影)

農作物の保護対策、家畜・備品・設備等の移動、交通手段・食料・燃料の確保などの対策を取っています。それでも浸水対策、排水作業をはじめ、基地内外の移動と諸作業の困難さは、通常をはるかに上回るものとなっています。

新任のレダ・スタッフに質問しました。

①レダの印象、②レダでの担当業務、③レダで苦心したこと、④将来の抱負

★小橋恵造さん (65)



①豚ランド、ポートヌエボなどを見ることででき、レダの地が無限の可能性を秘めた場所であることを実感しました。豚ランドで毎日出る豚糞を用いて肥料を作り、豚の餌となるトウモロコシや野菜を作ればと思いました。

②担当は、豚肉や魚肉を使った製品作りです。

③レダでは、現在川の増水により、肉、魚の材料を安定して手に入れることができません。ロースやヒレ肉の少ない豚をどう製品化するかという課題にも取り組んでいます。日本と違い、材料や機材が十分でなく、思ったようなものを作るのが大変です。ニンニクや、ハーブが作れるようになるとよいと思います。沢山の唐辛子が手に入るのはいいです。

④日々の挑戦、試行錯誤を通じて徐々に良いも

のが作れるようになってきました。ソーセージに色も着けられるようになり、これから商品価値のより高い、見栄えもよい真空パックを作つて、長持ちする品を作りたいです。またピラニアや、スルビなどの魚肉を使った製品も作つて、パラグアイの人達の食生活に貢献できるものを提供したいです。生産に関係した仕事で現地の人達が収入や技術を得られることは貴重です。

★坂井孔紀さん (再赴任) (28)



②豚を飼育して、最近では、つぼが分かり豚をマッサージしてやると喜んで寝転ぶ豚もできて、より豚に対して愛着ができました。

③今回水が多くて、ポートを使つてしかレティロや豚ランドに行けないので大変です。レダの豚飼育の特徴は完全な自然放牧ですが、遠くに行つて戻つてこない豚もあり、管理するのに多くの労力と豚に対する親のような愛情が必要です。

④抱負は色々ありますが、より豚が喜んで生活できる環境を整えて行きたいです。将来豚の飼育場に野菜畑を作つて飼料を作りたいです。

(坂井さんは、中田所長から借りた数冊の豚に関する本を読破して、色々熱心に研究しています。スペイン語も学び、乗馬、ポートの運転もできるようになりました。レダの環境でより広い範囲で動けるようになっていきます。伊達記)



★ズグロハゲコウ

パンタナールを代表する鳥はといえば、その存在感から言って筆頭はズグロハゲコウだろう。その大きさ、集団美、大空を舞う優美さ、至近距離から接した時の少しばかりグロテスクな趣き。この巨大な鳥に初めて出会った人はもちろん、長年見慣れた人にとっても迫力十分だ。

湿原にじっとたたずむ姿はエキゾチックだが、大きく真っ白な翼を拡げて悠然と飛ぶ時、その持てる最大の美を發揮する。時折見せる、数十羽が上昇気流に乗ってスパイラルを描きながら、数百メートルの高さで繰り広げる円舞は、天女の舞を想わせる。あまりに高すぎて、手許のカメラでは、白い点々にしか写らない。

パンタナールの純粋に真っ青な天空を巡回する、この優雅な白い鳥たちの舞は、

古典バレエのグランドフィナーレにも優る。餌

を採るためだけでなく、求愛のためでもなく、何のために舞うのだろうか？

その様は、雄大で、伸びやかで、少なくとも、悲しみの情景ではない。

豊水期から渇水期への移り目、干上がりつつある水溜りに取り残される魚たちを目当てに、

無数の水鳥たちが飛来する。その中で、ズグロハゲコウは大小の魚を巧みに捕らえ、真っ赤な喉に放り込む。豊かな生命を育むパンタナールの、食物連鎖のほぼ頂点集団に君臨するこの鳥を、人が食べるといふ話は聞いたことがない。

★コウカンチョウ



(コウノトリ目 コウノトリ科)

赤い頭、『紅冠』を持つ小鳥。英名のカーディナルの方が通じやすい。アルト・パラグアイ地域で、日常的に目にする、最もありふれた小鳥の一つである。日本におけるスズメのような位置にあると言えるだろう。ただし、人家の軒下に巣を営むのを見たことはない。

見ると、コウカンチョウに二種類があることにすぐ気付く。後頭部に冠が伸びているのが「コウカンチョウ」、頭が丸く、くちばしと足が黄色いのが「キバシコウカンチョウ」だ。さらに良く見ていると、両種とも頭部が茶色の同型がいる。これらは幼鳥である。

親鳥とほぼ同じ大きさに育った幼鳥が、親について回りながら餌をもらっている光景が普通に見られる。あたりに餌はいくらでもあるのに、親鳥は餌を拾っては子の口に入れてやる。見れば見るほど甘ったるい親子鳥だ。

残飯を皿に盛って軒先に置くと、どこかにいるはずれかのコウカンチョウが目ざとく見つけて舞い降りる。ご馳走にありつく間もなく、たちまち両種コウカンチョウたちが群がり、押し合いへしあい食べる。皿の縁も皿の中もコウカンチョウだらけで大騒ぎになる。どうも日本のスズメよりも食べ物に貪欲な印象を受ける。

自動車のサイドミラーはお気に入りの場所である。鏡の中の鳥を相手に遊ぶのだ。飽きずに毎日やって来る。



キバシコウカンチョウは、しばしば屋内に飛び込んでくる。ガラス窓の外から室内を覗いていることもある。糞さえしなければ入室を歓迎するのだが、台所にまで入られては困るので追い出している。

ある午後のこと、一羽のキバシコウカンチョウがひらひらと倉庫に入ってきた。弱っているように可哀そうだったし、倉庫なので黙認した。翌朝、この小鳥は冷たくなっていたが、何だか赤の他人ではないような気がして、土に埋めてやった。

(スズメ目 アトリ科)

(小田記)



四月、韓国MBCテレビがディアナ村を訪れ校長に取材をした時『首都から900Km離れ、レダの日本人が見捨てられた地域に学校を建て、村の環境整備を継続してくれ、感謝している』と話していました。

第5回一日特別研修会のご案内

日時： 2014年8月17日（日）

場所： 大山街道ふるさと館 二階研修室

（川崎市高津区溝口3-13-3 当会事務局前）

プログラム： 13:00 受付開始 13:30 開会 DVD上映

講義①「提唱者の思想と私たちーレダの開拓史」
飯野貞夫先生

講義②「ここまで進んだ地球環境問題」

（パンタナール地域の環境保全）高津啓洋先生

講義③「レダにおける理想郷建設」

柴沼邦彦先生 19:00 閉会

交通： JR 南武線 武蔵溝ノ口駅/東急田園都市線
溝の口駅北口より徒歩7分、高津駅より徒歩5分

参加費： 2000円（スナックつき）当日受付にて

申込： 参加申込用紙に必要事項を記入して、当会事務局にFAX してください。（044-829-2820）

主催： ピースソサイアティ 共催： 一般社団法人
南北米福地開発協会、NPO法人 地球の緑を守る会

第14回国際協力青年奉仕隊隊員が多くの申請者の中から選抜されました。

日本から12名アメリカから3名でスタッフも入れ、17名のボランティア隊にてパラグアイにおける活動を展開します。近年の異常気象の影響で例年のない雨が降り、予定していた内地のサンカルロス村への道路が寸断されており、今年の奉仕隊の計画を一部、変更せざるを得なくなりました。そのため、今年はパラグアイ川沿い、ボリビア国境近くのディアナ村で2003年建設した学校の修復、農園の造成、植樹活動等を行います。その後、レダにて初期開拓の体験をします。また1200Km 離れたアルゼンチン国境のエランド市にて市の教育委員会とともに緑のキャンペーン行い、その後、学校に行き学生と共に植樹を行います。

参加者の論文より

『私の将来の夢は、農業系の公務員になって国と世界の為に生き、貢献することです。具体的には日本で耕作放棄地を活用する技術を開発して輸出し、世界の食糧問題を解決したいと思っています。私は、以前「日本の為の日本ではなく、世界の為の日本に」という事を聞いたことがきっかけで、海外に目を向けるようになり、世界の為に生きる日本にしていきたいと思うようになりました。』

『将来の夢は教育に携わっていくことです。日本だけではなく、世界中で現場教育をしてみたいと思っています。その将来の夢に向かう上で、この国際協力青年ボランティア隊での経験は貴重なものになります。』

お便り歓迎！あて先は、office@asd-nsa.jp へどうぞ。

地球家族として、自然を守りましょう

一般社団法人 南北米福地開発協会会員募集中

南米、パラグアイ・パンタナール地域へのエコツアー、ならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月500円です。

毎月、パンタナール通信をお送りいたします。また、各種のセミナー、エコツアー等へのご案内をいたします。

一般社団法人 南北米福地開発協会事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話 044-829-2821

FAX 044-829-2820

会費納入 郵便口座

10180-77680471

Eメール： office@asd-nsa.jp

ホームページ： <http://www.asd-nsa.jp>